

明るいの房後

房後連絡協議会 編集
平成十七年一月二十七日発行
第二頁 十七七号

新しい年が始まりました

平成十七年、二〇〇五年をお互いに自分なりの希望を持って迎えたが、はや、一ヶ月が過ぎ去ろうとしています。

新しい年が始まって、房後でも本号で紹介したように、新規の工事が始まっていますが、この他にも、例え、四通路から南京極宅までの県道拡張工事も関係者のご協力によって、該当地内施設の撤去作業も行われています。また、農業経営面でも大きな取り組みがなされて、房後もますます元気になっていくものと思われれます。

日扇山に鳥居

昨年末に新迫集落では、地下のお宮の「日扇山」(ヒョーギサン)に、氏子代表升田好兼さん(左)に鳥居を建てる話が出て、早速新年になってその建築に取りかかっています。

材料は三上量三郎さんの奉寄進、裏山の樹齢一二〇年の檜の大木五本を、若い人は仕事で差し支えるので休日に手伝うとして、南京極則之、神田政喜さんが中心になり、高輪者達が伐採、松浦明夫さんがユンポで搬出しました。それを「しんりん」のご厚意でトラックをお借りし神山進さんが運転し高根原羽須美村戸河内の木工場で製材。持ち帰ってからは進さんの手も借りながら素人ばかりで加工しました。設け場所の土木工事も終わり、近いうちに立ち上げの予定です。「日扇熊野社」の額を掲げたこの手作りの鳥居は、自動車道からも眺めることが出来ます。

火の用心

防火水槽の設置

川や堤が近くにあつて、火災の際にはその水が使えるところはよいが、水源が遠くて心配なところには近年、防火水槽が設置されています。房後でも既に数カ所設置されています。その周辺の家を守っています。今年、明泉寺と神田宅との間の畠に設置されることになり、現在工事中です。施工者は早川工業、完成期限二月末となっています。

これらの水槽には七〇トンの水を常時貯水しておきますが、それは家庭用浴槽の約二〇〇倍分の水となります。これだけの水があれば初期消火には充分で、心強い施設です。

「備えあれば憂いなし」とはいうものの、火の用心が何より大切です。最近暖房などによる火事で、不幸な目に遭う事件がよく報道されます。くれぐれも気を付けましょう。

房後ふれあいサロン

今月のふれあいサロンは、十九日に行われました。参加者は二十四名でした。

午前中は、社協のご心配で、ボランティアのグループ三名が広島市から来られ、健康づくり体操の指導をしてもらいました。その中で特に「ガンバルーン」と名付けられたボール(一個千円)は、家庭で一人でも、それも座ったまま、あるいは腰掛けのままでも腰や手足の訓練が出来ます。それで皆さん、大変に興味を持たれたようです。もちろんこの評判の新型ボールも、継続して使わないと効果がないのはいうまでもありません。

午後は新年にふさわしい初笑い「お多福」などの楽しいゲームや「幸せのワルツ」「上を向いて歩こう」などを歌いました。

来月は十九日(水)です。午前中は話を聞き、午後は、ガンバルーンを使ったゲームや音楽などで心身に爽やかになることを目指しています。風邪を引かないように気を付け、元気でたくさん参加してください。

ふれあいセンターに机十脚

ホールで使う長机十脚を今回新しく購入いたしました。高齢者の場合、机が重いと出し入れに難儀します。それで、是非とも軽いのがほしいとの要望があつて買入れたものです。新しい机は、割りと簡単に持ち運びが出来るほどの軽量だそうです。

お詫び

前号で房後連絡協議会主催の「新年御礼会」を案内をしておきましたが、都合によって中止いたしました。多くの皆さんにご迷惑をお掛けいたしましたことをお詫びいたします。

トンド 今年も各地で

新年恒例の年中行事となっているトンドが、房後でも各行政区を中心に行われました。もつとも、この行事は昔から子どもが主体となつて行われていたものですから、高齢化、少子化、過疎化が進む今日では、なかなかその実施が難しい状況になっています。場所も家や施設の近くですといろいろ迷惑をかける心配もあるので、その安全が確かめられる所であればなりません。一五日(上)の午後二時に火を付けた下房後の場合は、従来の清涼橋から生田川沿いの制道を百メートル下がった地点から、さらに二百メートルばかり下がった佐藤さんの田んぼに移されました。随分離れた地点のようにも思われますが、側道は舗装されていて交通至便、対岸の五十貫分からもよく見える見通しの利く場所です。下房後にこんなに多くの人がいるのかと驚くほどの人出で、大変盛会でした。

写真は十日の成人の口に行われた新迫の様子です。場所は、旧京極屋敷の上側で、現在は休耕地になっている格好の場所です。

